

1 学校の活用事例

(1) 研修シート試案の活用

研修シート試案の活用事例は、
見開き 2 ページで、
左側が「研修シート試案」、
右側が「そのシートを活用した事例」
となっています。

研修シート(試案)

I - 1 発達障がいの特徴の理解

◎ ねらい

発達障がいのある生徒の学習の困難さを体験し、その心理や教師の指示の在り方を考える。

1 疑似体験 (教師役と生徒役、観察者に役割を分担して実施します)

演習1

※演習例

① 教師役が、次のような長い文章を早口で説明します。

明日は札幌の円山公園に出かけます。7時45分にJR「余市」駅に集まってください。
余市駅発8時18分の列車に乗り、札幌駅着が9時31分、到着後は、地下鉄南北線、東西線を乗り継ぎ、円山公園駅下車、バスセンターまで歩き、そこから西15番動物園線、円山西町2丁目行きのバスに乗ります。円山動物園前で下車すると、すぐそこに動物園の入り口があります。
動物園に入るときは、私が皆さんに、動物園の地図と入場券を配ります。・・・

② このあと、教師役が生徒役に質問をします。

- ・余市駅を何時の列車に乗りますか。
- ・地下鉄はどこで降りますか。
- ・何番線のバスに乗りますか。
- ・動物園まではどこ行きのバスに乗りますか。など

演習2

※演習例

準備：英文（61ページ参照）

教師役が英文をできるだけ早口で1回だけ読み聞かせます。
読み終えた後、どのような内容だったかを日本語で発表してもらいます。

2 振り返り (発達障がいのある生徒の心理面や教師の指示の在り方で気付いたこと)

【事例1】研修シート試案の活用

発達障がいの特性を理解するために

校内研修の取組（高等学校）

～校内研修において、研修シート試案のⅠ—1「発達障がいの特性の理解」を踏まえ、聞き取ることや理解することの困難さを体験しました。

- ◎ ねらい
発達障がいのある子どもの聞き取ることや理解することの困難さを体験し、その心理や教師の指示の在り方を考える。

1 疑似体験（教師役と子ども役に役割を分担して実施）

演習

- ① 教師役が、次の長い文章を早口で説明しました。

明日は、バスで町内の名所をめぐる予定です。注意することは、
「先生から目を離さないこと」
「はぐれないよう、グループで一緒に行動すること」
「勉強に関係ない無駄話をしないこと」です。

朝8時45分に学校を出発します。
バスで、名所をまわって見学し、公園で昼食とします。
昼食の時の約束は、
「好きな者同士で食べていいけど、一人ぼっちの人をつくらないこと」
「ゴミを公園に残さないこと」です。

帰ってきて教室で見学場所の歴史や文化をノートに箇条書きで整理します。
持ち物を言います。

①見学のしおり、②筆記用具、③ノート、④水かお茶（ジュースはだめです）、
⑤雨具、⑥弁当、⑦ハンカチ、⑧ちり紙です。おやつはだめです。

忘れ物は絶対しないようにしてください。また、見学場所は公共施設ですので、
他のお客様の御迷惑にならないよう、マナーを守ってください。
さあ、先生の話が分かりましたか。

- ② 教師役が説明内容について、淡々と質問しました。

- ・ 注意することの2番目は何でしたか。
- ・ 持ち物は全部でいくつありましたか。
- ・ 昼食の時の約束は何でしたか。

2 振り返り

- こんな長い説明は覚えきれないです。席に座っているだけで辛いと思いました。
- 認識するまでの時間が、人によって違うことがよくわかりました。
- 抑揚を付ける、言葉を区切るなどの話し方の工夫が重要と感じました。
- 覚えていないからと言って、子どもをただ叱るだけでは、解決しないと思いました。

研修シート(試案)

I - 2 実態把握、支援方法の検討

◎ ねらい

実態把握や支援方法を検討し、指導や支援の留意点を考える。

1 実態把握

この項目や内容を参考に、気になる子どもの実態把握をする。

項目	内 容	該当する場合は○
長所		
がんばろうとしていること		
聞く	全体への指示や説明を聞いて理解することが難しい	
話す	話しているうちに内容がそれることが多い	
読む	文字は読めても単語や文として読むことが難しい	
書く	板書を書き写すのに時間がかかることが多い 細かい部分を書き間違えたりすることが多い	
計算する	計算するのに時間がかかることが多い 答えを得るのにいくつかの手続きを要する問題を解くことが難しい	
推論する	図形を描くことが難しい 文章題を解くことが難しい	
注意集中	気が散ることが多い 最後まで課題に取り組むことが難しい	
多動性	じっと座っていられずに立ち歩くことが多い	
衝動性	質問を最後まで聞かずに答えてしまうことが多い	
人とかかわり	相手の感情や立場を理解することが難しい	
コミュニケーション	自分がわからない状況や困っていることを相手に伝えることが難しい	
興味の範囲	興味・関心のある対象が限られ、特定のものへのこだわりが強い	
特異な行動	身体の動きのぎこちなさや手指の不器用さが目立つ	

(参考 「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒等に関する調査」の項目)

2 支援方法の検討

上の表の項目を踏まえ、支援の方法について検討する。

※ ポイント～当該の子どもにとって、最も困難なことのみに目を向けるのではなく、自立してできることをさらに伸ばす観点から、支援の方法を検討する。

3 振り返り (実態把握と支援方法の検討を通して、留意点として考えたこと)

【事例2】研修シート試案の活用

実態把握と支援方法を検討するために

校内研修の取組（小学校）

～校内委員会において、研修シート試案のⅠ—2「実態把握、支援方法の検討」を活用し、児童の実態把握や支援方法について交流しました。

- ◎ ねらい
児童の実態把握や支援方法を交流し、指導や支援の留意点を明確にする。

1 実態把握

児童B

項目	項目	
長所	・授業において、学習活動に真剣に参加することができる。 ・学習に関する作業を丁寧に行うことができる。	
努力していること	・学習や生活の場面において周囲の状況を把握してから友達に話しかける。 ・分からないことや不安なことがある場合、周囲の教職員に相談する。	
聞く	全体への指示や説明を聞いて理解することが難しい	○
話す	話しているうちに内容がそれることが多い	
読む	文字は読むことができるが、単語や文として読むことが難しい	
書く	板書を書き写すことに時間がかかる 細かい部分を書き間違える	
計算する	計算に時間がかかる 段階を重ねて答えを導き出す問題を解くことが難しい	
推論する	図形を描くことが難しい 文章題を解くことが難しい	
注意集中	気が散ることが多い 最後まで課題に取り組むことが難しい	○
多動性	じっと座っていられずに立ち歩く	
衝動性	質問を最後まで聞かずに答えてしまう	
人とのかわり	相手の感情や立場を理解することが難しい	○
コミュニケーション	わからないことや困っていることを相手に伝えることが難しい	○
興味の範囲	興味・関心のある対象が限られ、特定のものへのこだわりが強い	○
特異な行動	身体の動きのぎこちなさや手指の不器用さが目立つ	

2 支援方法の検討

- 授業の流れが把握できず、集中できないことがあるため、見通しをもつことができるよう、スケジュールの掲示や明確な指示に心がける。
- 丁寧に作業していることを認め励ますことを大事にする。
- 相手の気持ちや周囲の状況を折に触れて、メモや絵で示し、理解を促す。

3 振り返り

- 児童Bのことをみんなで考えたことにより、つまずきのポイントが見えてきて、支援方法を考えることができました。
- 研修シート試案を活用することで、観点に沿って見取ることができるとともに、児童Bのもつよさを伸ばしながら適切な支援を行うことが大切と感じました。

研修シート(試案)

Ⅱ－１ 個別の指導計画の作成

◎ ねらい

個別の指導計画を作成し、書き方を考えるとともに、指導や支援の見通しをもつ。

学 年 _____

氏 名 _____

子どものよさ(○) 学習や生活上、困難なこと(△)		長期目標 (１年後を目標に)	
※記入例 ○ 数学の計算問題が速くできる。 ○ 見通しがもてると、集中して取り組むことができる。 △ 全体への指示を聞き取って行動することが難しい。 △ 座席のまわりが乱雑であり、自分の持ち物をなくしてしまうことが多い。		※記入例 ・説明や指示を聞き取って行動できる力を高める。 ・学校生活のルールを守って、行動することができる。	
短期目標 (１～３か月後を目標に)	場 面	指導や支援の内容、方法	評 価
※記入例 ・集中できる時間が長くなるようにする。	※記入例 ・授業中	※記入例 ・何をするのか、見通しを示し、集中できるようにする。 ・教室の音を減らし、教師の言葉も少なくし、集中できるようにする。	※記入例 ・３０分以上は座っていられるようになってきている。
※記入例 ・持ち物を自分で片付けることができる。	※記入例 ・授業中 ・学校生活	※記入例 ・持ち物の片付け場所を決める。	※記入例 ・少しずつ片付けることができるようになってきている。

２ 振り返り（個別の指導計画を作成して、気付いたこと）

【事例3】研修シート試案の活用

個別の指導計画を作成するために

校内研修の取組(中学校)

～校内研修で、研修シート試案のⅡ—1「個別の指導計画の作成」の様式を活用し、教職員全員で生徒Cの個別の指導計画の作成に取り組みました。

◎ ねらい

個別の指導計画を作成し、書き方を考えるとともに、本生徒への指導や支援の見通しをもつ。

第1学年 生徒C

生徒のよさ (○) 学習や生活上、困難なこと (△)		長期目標 (1年後を目標に)	
○何事にも素直に取り組む。 ○興味関心、知識があり、人との話題が尽きない。 △気持ちをおさえることができないことが多い。 △寝不足から姿勢の乱れ、行動の遅さが目立つ。 △授業中に授業以外の質問や発言が多い。 △相手の状況を考えた質問や会話が難しい。		・気持ちをコントロールする方法をもてる。 ・相手の状況を考えた質問や会話ができる。 ・メモをとる習慣を身に付け、質問を減らす。	
短期目標 (1～3か月後を目標に)	場 面	指導や支援の内容、方法	評 価
・1日1回、感情をコントロールできる。	・学校生活全般	・「今、怒りは10のうち、どれくらい?」「じゃあ、少しずつ静めよう」「よくがまんしました」と個別に声かけし、感情のコントロールを支援する。	
・1日1時間、授業中に授業に関係ない質問をしない。	・授業中	・授業以外の質問はメモをとって授業後にメモを見せるよう促す。 ・教師の指示はカードで掲示しておき、忘れても目で確認できるようにする。	
・週に1回、家庭でも認めもらえる。	・家庭との連携	・学校でがんばった事実を伝え、家庭でも認めてもらうようお願いする。また、保護者の悩みも聞く。	

2 振り返り

- 個別の指導計画と向き合うことで、生徒の心理を深く考えることができました。
- 目標を具体的に決めることで支援の内容や方法がはっきりしました。
- みんなで、生徒Cの個別の指導計画を考えることで、指導計画の書き方や生徒の実態把握の視点がよく分かりました。

研修シート(試案)

Ⅱ－２ 個別の教育支援計画の作成

◎ ねらい

個別の教育支援計画について保護者の理解や同意を得るための説明や相談の仕方を考える。

１ 保護者に個別の教育支援計画作成の同意を得るロールプレイ

(学級担任役、コーディネーター役、保護者役、観察役に役割を分担して実施します)

※ 場面を設定してロールプレイを行ってください。

※ ポイント～子どもの成長に向けて、保護者と共に考える姿勢を大切にしてください。

【場面設定の例】

- ・授業中、全体への指示を聞き取って行動することが難しい子どもについて、当該の子どもの保護者と２回目の話し合いの場面
- ・１回目の話し合いで保護者は「特別なことはしてほしくない」と話していた。
- ・そこで、次のような観点で教育相談を進め、最終的に個別の教育支援計画を作成することについて、同意を得ようとする場面

【教育相談を進める観点】

- 保護者の思いを聞く
- 保護者に支援の内容や方法を提案する
- お子さんができるようになってきていること、うまくいっていないことを確かめ合う
- 次の支援を一緒に考える
- これらのことを記録しておくことのよさを話し合う

２ 振り返り（場면을演示して気付いたこと）

【事例4】研修シート試案の活用

個別の教育支援計画の作成を目指して

校内委員会の取組(中学校)

～校内委員会で、研修シート試案のⅡ—2「個別の教育支援計画の作成」を活用し、個別の教育支援計画の作成に向けた教育相談のロールプレイを行いました。

- ◎ ねらい
個別の教育支援計画について保護者の理解や同意を得るための説明や相談の仕方を考える。

1 保護者に個別の教育支援計画作成の同意を得るロールプレイ

(学級担任役、コーディネーター役、保護者役、観察役に役割を分担して実施)

【場面設定】

- ◇ 先生役～担任の〇〇です。Dさん、今日はありがとうございます。
お子さんのことで、ちょっと話したいと思いましたので、来ていただきました。
- ◆ 父親役～うちの子に何かありましたか。
- ◇ 先生役～はい。学校ではとても元気ががんばっていますが、友達とトラブルになることが多くて、暴力をふるうこともあるので、ちょっと心配なんです。
- ◆ 父親役～そうですか。うちでは何も問題なく、落ち着いて生活してますけどね。
- ◇ 先生役～学校にはいろいろな友達がいるので、Dくんにとっては、コミュニケーションをとるのは確かに難しいと思うんですね。
- ◆ 父親役～じゃあ、なんですか。うちの子は他の子とちがって特別だってことですか。
- ◇ 先生役～いえいえ、そういうわけじゃなくて、Dくんにあった指導と一緒に考えていきたいと思っているんです。
例えば、サインを決めて、そのサインがあった時はがまんするとか、学校と家で同じ約束を決めていただいて、がんばったことをほめていきたいと思っています。
- ◆ 父親役～先生の考えは分かるんだけど、それは、うちの子だけ、特別のルールを決めてやっていくということですよ。うちの子を特別な子じゃなくて、他の子と同じように接してほしいんですよ。
- コーディネーター役
～コーディネーターの△△です。Dくんを特別扱いするのではなく、うちの学校では、一人一人をよく見て、一人一人に応じた指導をしていきたいと思っています。活用さん以外にもその子にあった指導を提案しているんです。
- ◆ 父親役～そうですか。じゃあ、他の子どもには、例えば、どんな対応をされているんですか。

(続きを含めて10分程度、演じた)

2 振り返り

- 振り返ってみると、自分はこれまで、保護者の思いをあまり聞いていなかったように思い、反省しました。
- 「保護者自身のがんばりを認める」、「保護者の思いを受け止める」ためには、教師側の心の余裕が必要と思いました。

研修シート(試案)

Ⅲ－１ 学級づくり

① 指導や支援

◎ ねらい

通常の学級における発達障がいのある子どもへの配慮を含めた学級づくりの取組を交流し、指導上の課題や解決の方向性を整理する。

１ 取組の交流

項 目	事 例	各項目ごとの学級づくりに関する取組交流
※記入例 もめごとやケンカを少なくする取組	※記入例 暴言を減らすために、学級担任が、教室の隅にビニール袋を貼り付けておき、誰かが言った暴言を担任は短冊に書き、それを子どもたちの目の前で破り、ビニール袋に投げ入れています。	
※記入例 叱り方に見通しをもたせる取組	※記入例 叱ることを最低限に減らし、毅然と叱るため、 ・人の心と体を傷つけたときは、ものすごく叱る ・できることをしないときは、叱る ・名札を忘れたときは、少し叱る など、叱る基準を４月に子どもたちに伝え、それを１年間守ります。	
※記入例 騒がしい教室を静かにする取組	※記入例 どの子も静かに集中して学習するために、「これから『サイレントモード』を始めます。１分です。」と言って静かにする時間をつくっています。また、どの子も静かに集中して活動するために、ひそひそ声でしゃべる時間も指示することがあります。	
※記入例 保護者との信頼関係づくりの取組	※記入例 ４月当初から、教師から見た子ども一人一人のいいところをメモしておいたり、「お子さんのよいところや担任にのぞむこと」などについて保護者アンケートをとっておき、その情報をもとに、家庭訪問や行事等の機会に「お母さん、◇◇さん、よくがんばっています。□□が得意なんですね。」と声をかけることを大事にしています。	

２ 振り返り（学級経営上の課題と解決策について、改めて気付いたこと）

【事例5】研修シート試案の活用

学級づくりの配慮を充実させるために

学級経営交流会の取組(小学校)

～学級経営交流会で、研修シート試案のⅢ—1「学級づくり ①指導や支援」を活用し、学級経営上の配慮の取組について交流しました。

◎ ねらい

通常の学級における発達障がいのある子どもへの配慮を含めた学級づくりの取組を交流し、指導上の課題や解決の方向性を整理する。

1 取組の交流

項 目	各項目ごとの学級経営上の配慮に関する取組交流
学習に集中させる取組  大声を出さず、キャラクターを提示	○ 指示する時に、「●分で行います」と終わりを明確に示す。 ○ ひそひそ声など、声のトーンを変化させて指示する。 ○ 一度に出す指示の数を減らす。 ○ 指示の後に、できたことをほめる。 ○ 私語のない子ども、集中している子どもを短い言葉で承認する。 ○ 「私の方を向いてくれてありがとう。」「静かに聞いてくれてうれしいです。」等、アイメッセージで伝える。 ○ 1分間ゲーム（数字書き出し、単語書き出し、目を閉じる等）を行う。 ○ 視覚的な支援で静寂の時間をつくる（例：口を閉じた絵カードなど）。 ○ 私語なしで取り組む時間（例～「サイレントタイム」「がんばりタイム」など）を様々な場面で導入する。
忘れ物を減らす取組	○ 自己目標を立て、忘れ物をなくす方法を考えるよう促す。 ○ 時間割などを活用して持ち物に色ペンで印を付けるよう促す。 ○ 「忘れ物ゼロ」の日は磁石を1つ貼り、たまるとお楽しみ会を行う。 ○ 明日忘れたら困るというものを歌にして、帰りの会で歌う。
人を傷つける言葉を減らす取組	○ 思わず乱暴な言葉を言ってしまいそうになったら、別の行動（10秒間目を閉じるなど）で気持ちを落ち着かせるよう促す。 ○ 教師が丁寧な言葉遣いに心がける。 ○ 互いに認め合う風土を醸成する。  一人一人のがんばりを花の形の色画用紙に書いて教室内に掲示

2 振り返り（学級経営上の課題と解決策について、改めて気付いたこと）

- 先生方の発想の柔らかさ、ユーモアの豊かさに触れることができ、新しいアイデアが浮かんだり、前向きな気持ちをもつことができました。
- これまで学級をよくしたいと思えば思うほど、禁止や否定の言葉を使っていたことに気付きました。

研修シート(試案)

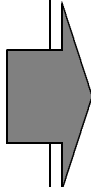
Ⅲ－１ 学級づくり

② 教師の言葉がけ

◎ ねらい

通常の学級における発達障がいのある生徒への配慮を含めた学級（ホームルーム）づくりの取組を交流し、指導上の課題や解決の方向性を整理する。

１ 実践の検討（「言葉がけ」を「好意に満ちた言葉がけ」に変える事例を検討し、生徒への教師の言葉がけの在り方を整理する。）

	「言葉がけ」	「好意に満ちた言葉がけ」
例１	「またA君か。誰かがけがしたら、どうする、危ないって言ったでしょ！何回言ったら分かるんだ！」	「いやなことがあったんだね。まず座りなさい。話を聞きますよ。」
例２	「静かにしなさい！」	「Bのグループは静かに待ってるね。」
例３	「この学級は、忘れ物をする生徒が多い最低の学級です！」	「この学級は忘れ物をする生徒は多いけど、授業の集中力は全校で一番いいね！あと、先生からのリクエストだけど、忘れ物をしないようにメモしておくといいよ。」
		

２ 振り返り（教師の言葉がけについて、改めて気付いたこと）

【事例6】研修シート試案の活用

好意に満ちた教師の言葉がけとするために

校内研修の取組(高等学校)

～校内研修で、研修シート試案のⅢ―1「学級づくり ②教師の言葉がけ」を活用し、「ひどい言葉がけ」を出し合い、それを「好意に満ちた言葉がけ」にかえる演習に取り組み、考えた言葉がけを共有しました。

◎ ねらい

発達障がいのある生徒を含めたすべての生徒に対する教師の言葉がけを考え、教師が発する言葉の重さや影響力の大きさを考える。

1 「ひどい言葉」を「好意に満ちた言葉」にかえる演習

	「ひどい言葉」	「好意に満ちた言葉」
1	「こんなことも分からないで、よく中学校を卒業できたな」	「よし、中学校までの学習に戻って先生と一緒にやってみよう！」
2	「もう、やりたくないなら、帰っていいよ。」	「まず何から取り組もうか。」
3	「何で、できないの！」	「どこから分からなくなっているのか、先生と一緒に考えよう！」
4	「あなたに頼んだ私が、バカだった。」	「大丈夫！次は期待してるよ！」
5	「どうせ、やる気ないんだろ？」	「何か嫌なことがあったんだね。気持ちのきりかえができるまで待つよ」
6	「話、聞いてなかったの？」	「大事なことなので、もう1回言います。しっかり聞いてください。」
7	「～なんでしょ。」(決め付け)	「先生は〇〇と思うんだけど、どう思う？」

2 振り返り

- 全否定の言葉は負のエネルギーしか生まないと実感しました。
- 自分の思い通りにならない時、厳しい言葉がけをしてしまっていました。
- 冗談のつもりが、つい、きつい言葉を言ってしまっていました。
- 教師の一言で、生徒の心がどれほど傷付くか、考えさせられました。

保護者に対する発達障がいなど、特別な教育的支援についての説明例

保護者の皆様へ

子どもには、よさやできることがたくさんありますが、「言語発達が遅い」「基本的生活習慣が定着していない」「会話がかみあわない」「落ち着きがない」など、どの子どもにも支援が必要なことがあります。

こうしたことから、本園では、校内委員会を設置して、特別支援教育コーディネーターを中心に、教職員全員で必要な指導や支援を行っていますので、御安心ください。

本園では、例えば、「遊びの中で実体験を充実させる」「そばについて、繰り返し丁寧に指導する」などの必要な支援を行っていきたいと考えています。すべての子どものよさや可能性を伸ばしていけるよう、一人一人に応じた指導や支援を行っていきますので、一部の子どもへの差別やえこひいきをするものではありません。

「互いのよさや違いを認め合える人間関係づくり」に取り組むことは、一部の子どもだけでなく、すべての子どもに対する指導の充実を図っていきけるものと考えておりますので、こうした取組について、御理解と御支援を賜りますよう、お願いいたします。

また、このことについて、御意見や御質問があれば、いつでも電話や手紙、メールなどをお寄せください。

子どもたちに対する発達障がいなど、特別な教育的支援についての説明例

子どもたちへ

ひとは、ひとりひとりちがいます。ひとりとして まったくおなじ人はいません。たとえば、「あしがはやい、おそい」「すきなたべものがちがう」などです。

ですから、みんなにも、「ことばで うまくはなせない」「みじたくが うまくできない」など、せんせいのたすけが ひつようなことがあるかもしれせん。

せんせいは、にがてなことには、たとえば、「あそびのなかで、いっしょにかんがえる」「そばについて、ゆっくりくりかえし はなしをする」など、たすけてあげたいと かんがえています。みんなの よいところが のびていくよう、ひとりひとりにあわせて おてつだいをします。

ですから、みなさんも、「ひとりひとりのよさや ちがいをたいせつにすること」に きょうりよくしてください。また、このことについて、おはなししたいことがあれば、いつでも せんせいにつたえてください。

【事例7】研修シート試案の活用

保護者に理解を深めるために

参観日で説明した取組（幼稚園）

～研修シート試案のⅢ―1「学級づくり ③障がいの理解」を参考に、4月の参観日に資料を配布し、保護者に説明しました。

◎ ねらい

研修シート試案の「学級づくり③ 障がいの理解」の説明例を活用して、参観日の配布資料を作成し、説明することにより、保護者の理解を深める。

1 参観日で配布し、園長が説明

保護者の皆様へ

（前略）

幼稚園には、大勢の友達がいます。

しかも、それぞれが違った個性をもっていて、いろいろな人と出会うことができます。

そして、お互いに分かり合うまでは時間と努力が必要です。

（中略）

人間は自分一人の力で生きるのではなく、互いに思い合い、助け合いながら育っていく関係をつくりだしてこそ幸せであると思います。その大切さを身をもって知っていくのです。見守っていきましょう。育ちあっていくことを信じて。不安なことがありましたら、ぜひ経験豊富な教職員を頼りにして下さい。一緒に悩みを分かち合ってくれると思います。

子どもには、よさやできることがたくさんありますが、「言語発達が遅い」「基本的生活習慣が定着していない」「会話がかみあわない」「落ち着きがない」など、どの子どもにも支援が必要なことがあります。

こうしたことから、本園では、校内委員会を設置して、特別支援教育コーディネーターを中心に、教職員全員で必要な指導や支援を行っていますので、御安心ください。

本園では、例えば、「遊びの中で実体験を充実させる」「そばについて、繰り返し丁寧に指導する」などの必要な支援を行っていきたいと考えています。全ての子どものよさや可能性を伸ばしていけるよう、一人一人に応じた指導や支援を行っていきますので、一部の子どもへの差別やえこひいきをするものではありません。

「互いのよさや違いを認め合える人間関係づくり」に取り組むことは、一部の子どもだけでなく、すべての子どもに対する指導の充実を図っていけるものと考えておりますので、こうした取組について、御理解と御支援を賜りますよう、お願いいたします。

2 振り返り

- 4月当初の早い段階で、保護者全員に対し、園の方針として、
 - ・互いに支え合い、助け合うことが大切であること
 - ・教職員は保護者の悩みを一緒に分かち合うので、頼りにしてほしいこと
 - ・子ども一人一人に応じた指導や支援を行っていくことに協力してほしいことを明確に伝えることができて、保護者との信頼関係づくりにつながりました。

研修シート(試案)

Ⅲ－２ 授業づくり

◎ ねらい

通常の学級における発達障がいのある子どもへの配慮について考え、授業づくりで心がけていくことを整理する。

１ 授業中の配慮

- ※ 配慮の例で、学校として１つ～２つを重点として定め、全学級で取り組むことが考えられます。
- ※ 配慮の例で、個人として既に取り組んでいるものは□を塗りつぶすなど、自己研修に使うこともできます。
- ※ 授業の展開は、その時間の目標や位置付けに応じて定めてください。

過程	子どもの主な学習活動	発達障がいのある子どもに対する教師の配慮の例
導入	■子どもが何を、どのように学ぶかを見通すことができる。	◎ 興味・関心を高めるよう工夫する。 □ 課題を視覚的に理解できるようにする。 □ 話す内容を精選し、簡潔な発問、指示をする。 □ 考え方や解き方を説明する（ＩＣＴ機器等の活用など）。 □ 教師が説明した内容を理解したかどうかを確認する。 □ 本時の学習のねらいを示す。 など
展開	■子どもが目標の実現に向けて、主体的に学習することができる。	◎ 集中して取り組めるよう工夫する。 □ 考え方や解き方の説明をもとに、取り組むよう促す。 □ しやべらないで、集中して学習するよう促す。 □ 一人で解決することがむずかしい子には、教師が付いて、その子の状況に応じた方法（視覚的支援、操作活動の支援、スモールステップの取組の支援、演示や助言、問答など）で教える。 □ 取組の途中で、その子なりのがんばりをほめる。 など
終末	■子どもが学習を振り返り、何を学んだのかを自覚することができる。	◎ 学んだことを理解できるよう工夫する。 □ 考え方や解き方をまとめる（ＩＣＴ機器等の活用など）。 □ 本時の学習で分かったことを確認する。 □ 練習問題への取組を促し、一人一人の状況を確認する。 不十分な場合は、その子の状況に応じた方法で教える。 ※ 必要に応じて、難易度の違う練習問題を用意しておく。 など

【授業全般を通した配慮の例】

- 教師の発言
 - ・教師の言葉を減らす、好意に満ちた言葉がけとなるよう心がける など
- 板書
 - ・大事なことは線で囲む、ノートのマスや行に合わせる、色分けする など
- プリント
 - ・読みやすい位置で改行する、写真や絵の境目をはっきりする、振り仮名を大きくし、読みやすくする など

２ 振り返り

- ※ 授業実践や授業参観等を振り返って、今後、心がけることなどについて記述します。

【事例8】研修シート試案の活用

授業の配慮を充実させるために

日常の授業づくりの取組(高等学校)

～校内研修で、研修シート試案のⅢ―2「授業づくり」を活用し、日常の授業で教師の配慮を意識して取り組むことを決めました。

◎ ねらい

通常の学級における発達障がいのある生徒への配慮について考え、授業づくりで心がけていくことを出し合い、どの授業でも共通に取り組めることを整理する。

1 授業中の配慮

過程	生徒の主な学習活動	本校で定めた発達障がいのある生徒に対する教師の配慮
導入	■生徒が何を、どのように学ぶかを見通すことができる。	● 本時のねらいを明確に示す。 ● 学習内容がどのような場面で役立つかを伝える。 ● 指示は短く、端的にする。 ● 本時のスケジュールを説明する。
展開	■生徒が目標の実現に向け、主体的に学習することができる。	● 一人で、私語なしで静かに取り組む「静寂の時間」を取り入れる。 ● ペアやグループによる学習活動を取り入れる。 ● スモールステップで取り組める問題を用意する。 ● がんばっていることや、よい点を認める。
整理	■生徒が学習を振り返り、何を学んだのかを自覚することができる。	● 板書は消さずに、終末で学習内容を振り返る。 ● 板書は全て写すよう促すのではなく、大事なところを写す、プリントの空欄に書くよう促す。 ● 「○×クイズ」、「確認問題」等で、定着状況を確認する。
授業全般にかかわる配慮 ○ 「分からない時は分からないと言おう。」と伝える。 ○ 「間違っても分からなくても恥ずかしくないこと」を徹底する。		

2 振り返り

- 授業中、ある場面で教師の指示が長すぎて、ほとんどの生徒が混乱していたことがあったので、指示は端的で明確にすることが大切と思いました。
- これまでの授業の反省すべき点が多々思い浮かびましたが、心がけることを先生方全員で整理したことで、明日から自信をもって授業に臨めると思いました。

研修シート(試案)

Ⅲ－３ 校内の連携

◎ ねらい

学校全体で取り組む発達障がいのある子どもへの指導や支援の在り方を検討する。

１ A君への教職員一人一人のかかわり

※ 学級の中だけの対応から、学校全体で組織的に対応していくため、教職員一人一人が時間帯によって、どうかかわれるかを考えてみる。

	学級担任	特別支援教育支援員	学年団	特別支援教育 コーディネーター	養護教諭		
登校時							
授業中							
休み時間							
給食							
清掃							
下校時							

記入例

	担任	特別支援教育支援員	学年団	特別支援教育 コーディネーター	養護教諭		
登校時	教室で道具の片付けを支援する	玄関から教室までの移動の様子を見守る		各教室を巡回し、様子を確認する			
授業中	必要に応じて、支援する	取組のよさを付箋紙にメモしてほめる					
休み時間	学級全体の休み時間の様子を把握する	必要に応じて、活動を支援する	様子を見守る				
給食	一人一人への安全な給食について留意する	必要に応じて、支援する					
清掃	必要に応じて、支援する	支援の結果をメモで担任に伝える			掃除の様子を見守り、担任に伝える		
下校時	一日の取組のよさを伝える			各教室を巡回し、様子を確認する			

２ 振り返り（校内全体で支援を行うために心がけること）

--

【事例9】研修シート試案の活用

校内の連携を確認するために

校内委員会の取組(小学校)

～校内委員会で、研修シート試案のⅢ―3「校内の連携」を活用し、支援を必要とする子どもへの指導や支援体制の在り方について検討しました。

◎ ねらい

通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする子どもへの学校全体の対応を検討する。

1 Eさんへの教職員一人一人のかかわり

※ 学級の中だけの対応から、学校全体で組織的に対応していくため、教職員一人一人が時間帯によって、どうかかわれるかを検討。

	学級担任	支援員	ことばの教室担任	担任以外の教職員
登校時	・教室で本児を出迎え、様子を把握する。		・本児を玄関で迎え、気になる様子が見られたら教室まで同行する。	・本児に言葉かけをしたとき、気になる様子が見られたら教室まで同行する。
授業中	・本児に対する個別指導の内容を支援員に伝え、連携を図って指導を行う。	・学級担任と連携し、個別指導を行う。 ・学級担任に本児の学習状況を伝え、事後の指導について協議する。		
ことばの教室			・本児が学習しやすい雰囲気づくりに努め、指導の様子等の情報を学級担任等と共有する。	
休み時間	・本児の観察に努め、学級全体の様子を把握する。	・本児の観察に努め、学級全体の様子を把握する。 ・学級担任と情報を共有する。	・本児の観察に努め、学級全体の様子を把握する。 ・学級担任と情報を共有する。	・本児の観察を意識し、気になる様子が見られたら、学級担任に報告する。
給食	・本児の状態に応じて一緒に食事をする。		・本児とかわりながら給食指導を行う。 ・担任と情報を共有する。	・本児の観察を意識し、気になる様子が見られたら、学級担任に報告する。
清掃	・本児の活動の仕方に応じて言葉かけをする（賞賛の言葉かけを意識する）。	・本児の活動の仕方に応じて言葉かけをする（賞賛の言葉かけを意識する）。 ・学級担任と情報を共有する。	・本児の活動の仕方に応じて言葉かけをする（賞賛の言葉かけを意識する）。 ・学級担任と情報を共有する。	・本児の活動の仕方に応じて言葉かけをする（賞賛の言葉かけを意識する）。 ・学級担任と情報を共有する。
下校時	・家庭に1日の様子を伝え、情報を共有する。			・本児に言葉かけをしたとき、気になる様子が見られたら教室まで同行する。

2 振り返り

- 「いつ」「だれが」「どのような」支援をするかについて共通理解を図ることができたので、指導や支援を意図的、計画的に行うことができました。
- みんなで役割を検討し、Eさんにどうかかわるかを自分の中で考えていく中で改めてEさんのよさが見えてきました。

研修シート(試案)

Ⅳ－１ 個別の指導計画の活用

- ◎ ねらい
個別の指導計画をもとに、支援の改善やその質の向上について考える。

１ 個別の指導計画に基づいた協議

【協議の観点の例】

- 評価

- 子どものよさのとらえ直し

- 活動や生活を行っていく上で困難なことの再確認

- 長期目標や短期目標の妥当性

- 指導や支援の内容、方法の改善・充実の具体策

２ 振り返り（協議を通して、改めて気付いたこと）

【事例10】研修シート試案の活用

個別の指導計画を見直すために

園内研修の取組（幼稚園）

～園内研修において、研修シート試案のⅣ―1「個別の指導計画の活用」の観点に沿って、個別の指導計画を見直しました。

◎ ねらい

研修シート試案の項目に沿って、個別の指導計画を見直し、指導や支援の質の向上を図る。

1 Fさんの個別の指導計画に基づく協議

○ 評価

- ・自分の所持品の後始末に取り組むが、絵カードや写真の名前を覚えたり、理解したりすることはまだできない。
- ・まだ単語ではあるが、自分の思いを相手に伝えようとする姿がみられる。

○ 子どものよさのとらえ直し

- ・具体的に指示したり、見通しを伝えたと理解できる。

○ 活動や生活を行っていく上で困難なことの再確認

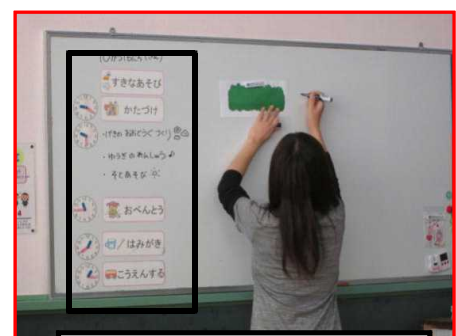
- ・後始末の前に、排泄の仕方や手順を一部理解できていない。
- ・思いを伝える前に、園生活に必要な名前の中で、理解していない名前がある。

○ 短期目標の妥当性

- ・短期目標をもう少しハードルを下げて具体的で実現の可能性が高いものにすることがある。
 - ①「後始末ができる」
 - 「排泄の仕方や手順を知る」
 - 「ズボンとパンツを脱いで行う」
 - ②「自分の思いを言葉で伝える」
 - 「園生活に必要な名前を知る」

○ 指導や支援の内容、方法の改善・充実の具体策

- ・排泄時は教師も一緒についていき、根気よくかかわる。
- ・園生活に必要な言葉は絵カードで伝える。
- ・1日のスケジュールを掲示し、安心感をもたせる。



1日のスケジュールを時計の針とあわせて常時掲示しておく

2 振り返り

- 研修シート試案の観点に沿って考えることで、Fさんのよさをとらえ直し、短期目標をより具体的に設定するなど、個別の指導計画を見直すことができました。

研修シート(試案)

Ⅳ－２ 個別の教育支援計画の活用

◎ ねらい

個別の教育支援計画を活用した次の校種への引継ぎの仕方について考える。

１ 個別の教育支援計画を活用した次の校種へ引き継ぐ際のロールプレイ

(コーディネーター役２名、観察役に役割を分担して実施します)

※ 場面を設定してロールプレイを行ってください。

【場面設定の例】

- ・ 幼稚園のコーディネーターが、小学校のコーディネーターへ引き継ぐ場面

【引継ぎの観点の例】

- 本人の思いや願い
- できるようになってきたことやできそうなこと
- 保護者の願い
- これまで取り組んできた環境づくりや支援
- 特に留意すべき点

２ 振り返り (場面を演示して気付いたこと)

【事例11】研修シート試案の活用

個別の教育支援計画の活用を目指して

専門家チームの巡回相談の機会の取組(幼稚園)

～研修シート試案のⅣ―2「個別の教育支援計画の活用」を参考に、専門家チームの巡回相談の機会に、保護者と小学校に引き継ぐ内容を話し合いました。

◎ ねらい

研修シート試案の項目に沿って、個別の教育支援計画を活用した次の校種への引継ぎの内容について考え、効果的な支援や環境づくりを検討する。

1 話し合った引き継ぐ内容

○ 本人の思いや願い

- ・自分がどこで何をすればよいか先に教えてもらえると、自分から進んで行動できる。

○ できるようになってきたことやできそうなこと

- ・劇の練習では、台詞や振り付けなどを楽しみながら、間違えずに演じることができた。
- ・母親から、「妹のお風呂の入り方について、肩まで湯船につかる、30まで数えたら上がるということをよく見ていてほしい」と頼まれると、妹の面倒を見ながら一緒にお風呂に入ることができる。
- ・父親がくしゃみをする、「お父さんの身体が心配だ」などと優しい言葉をかけることがある。

○ 保護者の願い

- ・保護者は、事前に見通しをもたせることができれば、内容を理解して行動できることを小学校に引き継いでほしいと願っている。

○ これまで取り組んできた環境づくりや支援

- ・話しかけるときは、知っている言葉で具体的に話しかけるようにすること。
- ・新しいことを教えるときは、絵や図を用意し、分かるように予定を伝えるようにすること。
- ・「顔の表情の絵カード」を使用し、気持ちを表現しやすくしたり、ほめるときに大人の気持ちを伝えやすくしたりすること。

○ 特に留意すべき点

- ・「もう少し待って」などの抽象的な言葉や、「それでは、体育館に行きなさい。体育館に行ったら並びます。並んだら先生の話聞き、ステージにあがってお遊戯の練習をします。」などの長い説明は、十分に伝わらない。
- そのため、「時計で○まで」など具体的に指示したり、絵や図などを見せながら伝えるとよい。

2 振り返り

- 家庭での保護者の効果的な関わりを聞き取り、それを幼稚園での支援に生かすことを伝えることにより、保護者と幼稚園との共通理解が深まることが分かりました。
- 共通理解した内容を引継ぎに生かしたり、個別の教育支援計画作成の同意につなげたりすることができると実感しました。

研修シート（試案）

V－2 研修成果の検証

例【教職員へのアンケート項目の例】

※ 教職員に感想を聞く、アンケートをとる(項目は学校で設定)。○を付ける

	発達障がいのある子どもへの指導や支援について	十分理解している	少し理解している	あまり理解していない	全く理解していない
1	発達障がいの特性の理解				
2	実態把握、支援方法の検討				
3	個別の指導計画の作成				
4	個別の教育支援計画の作成				
5	発達障がいのある子どもへの配慮を含めた学級づくり				
	① 指導や支援				
	② 教師の言葉かけ				
	③ 障がいの理解				
6	発達障がいのある子どもへの配慮を含めた授業づくり				
7	校内（園内）の連携				
8	個別の指導計画の活用				
9	個別の教育支援計画の活用				

例【子どもへのアンケート項目の例】

※ 子どもに感想を聞く、アンケートをとる(項目等は学校で設定)。○を付ける

	学校生活で感じていることについて	そう思う	どちらかといえば そう思う	そう思わない
1	学級は、みんなで協力していると思う。			
2	先生は、あなたのよいところをみとめてくれていると思う。			
3	授業や先生の説明は、分かりやすいと思う			

【事例12】研修シート試案の活用

研修成果の検証(小学校)

1 教職員の意識の変化

① アンケート結果より

※26年度分は27年6月に、27年度分は27年12月に実施

		十分理解		少し理解		あまり理解ない		全く理解ない	
		26年度	27年度	26年度	27年度	26年度	27年度	26年度	27年度
1	発達障がいの特徴の理解	54%	79%	46%	21%	0%	0%	0%	0%
2	実態把握、支援方法の検討	54%	94%	46%	6%	0%	0%	0%	0%
3	個別の指導計画の作成	54%	93%	46%	7%	0%	0%	0%	0%
4	個別の教育支援計画の作成	54%	81%	38%	19%	8%	0%	0%	0%
5	学級づくり								
	① 指導や支援	54%	82%	46%	18%	0%	0%	0%	0%
	② 教師の言葉がけ	54%	100%	46%	0%	0%	0%	0%	0%
	③ 障がいの理解	62%	79%	38%	21%	0%	0%	0%	0%
6	授業づくり	54%	94%	46%	6%	0%	0%	0%	0%
7	校内（園内）の連携	54%	71%	46%	29%	0%	0%	0%	0%
8	個別の指導計画の活用	54%	62%	46%	38%	0%	0%	0%	0%
9	個別の教育支援計画の活用	54%	61%	46%	39%	0%	0%	0%	0%

② 教職員の主な声

- 「研修シート」等を活用したことにより、各学級における特別な教育的支援を必要とする児童について、共通した視点で全体交流を行い、情報を共有することができた。
- 「校内研修プログラム」を継続的に活用することで、普段から教師が「好意に満ちた言葉がけ」を意識できるようになった。
- 授業中に意図的に「静寂の時間」を設定したことにより、児童の集中力が高まった。
- ICT機器を活用した視覚的な支援を全校で取り組むことができた。

2 子どもの意識の変化

① 全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査結果より（「当てはまる＋どちらかといえば当てはまる」に回答した割合）

自分にはよいところがある		国語の授業がよく分かる		算数の授業がよく分かる	
26年度	27年度	26年度	27年度	26年度	27年度
45.9%	81.7%	72.3%	83.6%	77.8%	83.7%